

会 議 録

会 議 名		令和 6 年度 第 3 回 川西市社会教育委員の会	
事務局		市民環境部 生涯学習課 (内線 4567)	
開 催 日 時		令和 7 年 3 月 14 日(金)14 時 30 分～16 時 27 分	
開 催 場 所		アステ川西 5 階 ルーム 500	
出 席 者	委 員	野崎議長、常行副議長、川野委員、倉橋委員、三善委員、 升村委員	
	そ の 他	テーマに係る担当所管 三石教育保育課長、山守教育保育課主査、足立指導主事	
	事 務 局	岡本市民環境部長 篠内市民環境部副部長(生涯学習・図書館・公民館担当) 木田生涯学習課長、尾屋生涯学習課長補佐、	
傍聴の可否		可	傍 聴 者 数 1 名
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第		別紙のとおり	
会 議 結 果		別紙のとおり	

審 議 経 過

1. 開 会

2. 市民環境部長あいさつ

- ・年度末のお忙しいところ出席していただき、感謝する。
- ・前回に引き続き、学校運営協議会制度への社会教育の関わり方を協議していただく。
- ・前回、委員の皆さんから質問があった研究テーマに関しての方向性を教育長に確認させていただいたので、今回報告させていただく。

3. 報 告

令和 6 年度第 2 回社会教育委員の会以降に委員が出席された各会議について、会議概要等について報告がなされた。

報告がなされた会議

- ・「令和 6 年度阪神北地区社会教育委員協議会第 2 回研修会」(令和 7 年 2 月 19 日開催)

4. 議 題

学校運営協議会制度への社会教育の関わり方

今期テーマを研究するにあたり、教育委員会の思いについて報告した。

(事務局)先日、教育委員会の意向を確認するため教育長のところに出向いた。

教育委員会として、学校運営協議会制度は学校と地域が WinWin の関係になることが肝心であるが、現在は学校の中に地域の人が入って、子どもの学びを支えるという学校だけが Win の状態になっている。

しかし、学校は子どもだけでなく、大人の学びの場など色々な人のための学校といったスクール・コミュニティという考え方がある。

学校を借りて地域が子どもたちと色々なことをしている事例があるので、そのような関わりについて、先行事例として提案してほしいとのことである。

川西市のとある学校では、地域の方と子どもたちが一緒に学校で宿泊し、防災活動をしているような例がある。

このように地域と子どもたちが一緒に学べる場など、さまざまな取り組みが想定できると思うので、そのような地域と学校が WinWin の関係になるような取り組みを社会教育側の視点で考えてほしいとのことである。

協議の前に文部科学省が作成した川西市の学校運営協議会について紹介している、YouTube「地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2022 オープニングムービー」を視聴していただいた。

その後、研究テーマについて、フリーディスカッションを行った。

(議 長)まず、今年度の総括であったり、今後の方向性について教育保育課から情報提供をいただきたい。

(教育保育課長) 先ほどのビデオだが、先行地ということで視聴していただいたが、令和6年度をもって全学校園所に学校運営協議会、地域学校協働本部が設置された。

先行地のところとこれから始めるところの取り組みでは、課題にも差があるのは確かである。

ただ、先行地でされていた事例を校種別の校園長会などで、先行事例を見ながら進めてきたと思っている。

最初は、学校長や園所長がこういった支援をしてほしいということが、中心になっていて、そこに多くの力を貸していただいているところだが、先ほどのYouTubeでも子どもたちが地域に行って、地域の祭などの運営に携わっている例もあるので、そこを何とか横展開ができて、さらに、社会教育委員の皆さんのお力も借りて進めて行ければと思っている。

(委員) 阪神北地区社会教育委員協議会の研修会での感想も含めてになるが、講師の先生から学校だから当たり前ではあるが、学校現場が中心になっている。本来は学校中心の地動説ではなく、天動説で、学校教育は社会教育に包摂されるものとおっしゃったのが印象的である。

コミュニティ・スクールというと学校に地域が入っていくというイメージだが、地域の中に学校があるので、活動していく中で学校はよくなるだろうし、地域づくりで地域もよくなるというWinWinの関係なのかなと思っている。

今は、学校運営協議会が始まったばかりで、学校のお手伝いをしてほしいみたいな感じのイメージでやはりWinWinではなく、学校のためのWinで止まっていると思っており、これからの展開次第かとも思うけれども、どういう形がいいかは少し難しいと思っている。

別のところの紹介になるが、主に中学生を対象に大人としゃべる場を設けている。

トークフォークダンスといって、体育館に全校生徒が丸く1周になって、フォークダンスのように子どもが1周、大人も1周し、1～3分間で中学生の話を地域の大人が聞くというものがあり、3分経つとまた、次の人みたいな感じで、お話をする会を鳥根県益田市が行っている。

元々は、地域の人が子どもたちに何かを教えてあげなければとか、正しい大人の姿を見せねばという感じだったが、子どもたちの話を聞くことで、子どもたちもしっかり考えているなということで、地域が逆に教えてもらって、すごく楽しく、勉強になったという取り組みがあり、次の世代、次の世代と続いており、地域がつながり、その地域のことが好きになるし、地域を出てもまた戻りたいというようなことで素敵な取り組みだと思ったところである。

(議長) 二点の指摘があった。一つ目は天動説である。

やはり、地域がよくなないと学校もよくなれない。

本市の場合は、都市部で阪神間なのでわかりにくいですが、これが郡部や山間部になると明らかで、新入生が5人というところもある。

本市はそこまでではないが、よく見ればそういったところが生れてきているし、限界団地であったり、よくよく見れば同じで、地域が今どうなっているか、このままでは危ないよねということから、話を組み立てるといのが、教育長の宿題の一つではないか。

地域の方から学校を見ることの視点は、学校の先生方に求めることはできないし、そういった目線を持っている校長先生ならできるが、そうした意味から社会教育という立ち位置というのは、地域という立ち位置から学校を見る。そしてその基盤である地域というものをどうしていくという

ころがまずあり、そのプロセスで学校とどう関わっていくんだという天動説という視点がすごく大事だという指摘であったと思う。

二つ目は繋がりである。

本市には残念ながら大学が市内にない。ただ、学生はいるので、住むのは無理でもイベントで繋ぐという縦の繋がりを作って、地域を作っていくという仕掛けをしているところは若干あり、それは社会教育の仕事なので、そういった繋がりを意識的に作っていくということで、突破口としてあるのかなと思う。

(委 員)まだ学校運営協議会への具体的な関わり方というのは見えていないが、学校のあり方をこれからも持続的にやっていけるように社会教育が学校運営協議会も入って、どう関われるのかということだと思うが、もっと大きいところで捉えたときに、子どもの育ちというものを我々がこの社会でどう作っていくのか、その時に決して学校教育だけで子どもが育つわけではなく、学校教育と社会教育の両輪で育てるという視点を持ち続けたいなと思っている。

学校に色々な方々が入って、学校がより充実して豊かで、学校の中でも多様な学びや出会いがあるというのは良いし、生涯学習にも繋がっていくと思うが、学校が豊かで多様で充実すれば素晴らしいというわけではなく、人の生き方、生活が学校や職場だけで満たされるものではなく、一つの社会の中で生きる自分が豊かになっていくことで、人生も豊かになっていくという視点をもって地域社会での社会教育が豊かになるということを求めたいと思う。

そういう視点に立ったとき、学校運営協議会に社会教育が入っていく良さというのは、学校の中で社会教育と出会い、その出会いをきっかけに地域社会に目を向けて学校以外での居場所があったんだとか、学校以外でも豊かな体験ができるんだと、そしてそこに行ってみたいという連携・循環ができるような仕組みづくりができればと思う。

部活動の地域移行の話もあったが、今市民から声が挙がっていて、川西市の動きは少し性急ではないか。受け皿が全然ない中で地域移行が動いていくのは、本当に子どもたちが不安に思ったりしているという耳にしている。

学校教育を多様化させていくのと同時に例えば公民館をもう少し子どもにも開かれた場所にしていって、そこでの受け皿づくりを豊かにさせながら、文化系の部活動の受け皿とかも作って連携してあげるとかも必要だと思う。

また、市民活動の掘り起こしとか把握、ネットワークづくりによって、受け皿を豊かにし、6割程度は整ってから進めることが必要だと思う。

(議 長)部活動の地域移行については、神戸市教育長が旗振りをされているが、その神戸市の横に位置する明石市は、神戸市と事情が違っており、人口が増えている。

部活動はこれまで通り維持できる体制にある。神戸市を参考にはするけれども、過去の経験も踏まえて動いているということであった。

本市も色々な展開があるので、神戸市が部活動の地域移行の案をどんどん出されるが、それはひとつの例として本市なりのあり方を検討していけばいいと思う。

また、そのプロセスで公民館という話があったが、本市の唯一最大の社会教育の武器は公民館であって、中学校区単位で公民館があり、人材が宝庫でボランティア活動も長けているし、市の職員もいらっしゃるので、そことどうタッグを組んでいくか。

そして、中学校区毎に将来像、現状がどうなっているか。当然、川西市の場合は、南北問題もあり、地区ごとに課題が違うので、そこは公民館毎に館長が課題も持っておられると思う。最初に申し上げたまちづくりの方向性、地域がどうなっていて、それに向けて学校はどうするんだという突破口があるのかと思う。

それと、阪神北地区社会教育委員協議会の研修会で講師を務めていただいた兵庫教育大学客員教授の浅野先生がおっしゃっていためざす子ども像とめざす学校像だが、私も阪神北地区の研修会と前後して県や阪神でコミスクの講演をして、はからずも同じことを言っていた。

つまり、めざす子ども像というのは、学校教育と社会教育ではズレがあるだろう、根っこ、もしくは方向性は一緒で車の両輪なので、学校教育と社会教育の両輪で進めましょうということ。

これは、1998年の学習指導要領で、学校5日制が始まったときに学校教育と学校外教育の両輪で子どもたちの生きる力を進めましょう。土・日も子どもたちは活動ですという、週休2日ではないよ。社会教育で土・日もがんばれということだったと思う。

学校教育と社会教育が手を繋いで行こうと、得意とする分野が違うということだ。

地域のめざす子ども像がニアリーイコール学校教育目標で、ここをイコールと勘違いしていないか。イコールと勘違いしているから押し付け合いになってしまう。

浅野先生がおっしゃっていた地動説とニアリーイコールというのがキーかなと思う。

めざす子ども像については、学校教育は夢や希望を叶えてもらわないといけないという部分がある。しかし、地域はそれもいいが、村の祭りをちゃんと回してくれたり、子どもの面倒を見てとか、色んな人の気持ちに寄り添ってくれるやさしい子を育てたい。学校教育でもするが、そのウェイトが違う。守備範囲が違うので、それぞれがそれぞれの思いを持って子どもたちに向かえばいいと思う。

(委員)私はパネリストで参加させていただいたが、小学校長ということで、学校側から話をさせていただいた。

浅野先生の話では、やはり学校の教育目標であるとか、学校の運営方針というものをしっかり伝えることとされているが、学校側がまず伝えられているのかと考えて、今年度出した学校教育目標を照らし合っしながら、弱みなんかを整理して学校運営協議会に出していきたいと思った。

また、地域と学校の連携については、全国を見ても地域は組織的に学校に協力し、学校の環境整備や安全確保などの学校の教育活動に加え、学力向上などの教育活動の支援を行うというレベルぐらいだと思う。

私も地動説はいやだなと思っていて、外に出て行きたいという思いが強くて、どんな地域になっていくのが望ましいかを考えていた。

牧の台小学校では、地域の入っていただくことについては、もちろんお手伝いとかしていただいているが、積極的に学力向上とかについては、地域の方には言わず、もっとおもしろいこととか、子どもたちが外に行くことを考えていて、コミュニティ・コラボレーション・ラーニングという形で地域とともに探究学習を進めていこうと来年度から2年間市の指定研究を獲って、しっかり研究していくこととしている。

また、牧の台小学校区には色々なところに活動拠点があって、町の活性化拠点というのがあるが、そちらに子どもたちがお邪魔して企業や団体からまちづくりとは何なのかを見聞きし、僕たちのできるまちづくりとは何だろうということを考えるような取り組みを進めている。

本当に単純な意見しか出ていないが、実際に大和の福祉委員会では、子育て支援であったり、子どものまちづくりであったり、子どもを中心とした居場所づくりを考えていただいたりして、そういう企業や団体といった地域の方とコラボしたいという思いがある。

今、川西市では、市長や教育委員会が小中学校と交流会、意見交換会をしているが、地域の方もしたいという話があって、地域と小中学校の児童・生徒との交流会を先立ってではないが行っている。

その交流会の中で、公園のゴミ箱が意図があってどんどん撤去されている世の中ですが、子どもたちがまちの課題を調べたときに、何でゴミ箱がなくなったんだろうとかを話をし、それを聞きに行ったりして、なるほどとなって、それじゃあどうすればいいんだろうと子どもながらに考え、今度プレゼンテーションを行うこととしている。

それで、これならやっていけるだろうと地域の方も賛同してくれているので進めていきたいと思っている。

ぜひ、川西市で地域性がある事例を作って、大和団地が好例となるような取り組みで、学校側からすれば探究学習とはこうだよねということと、学校が掲げている教育目標に向かって地域の方に支えてもらって一緒に取り組みを進めることで、めざす子ども像に近づけたということが言えるようになるかなと考えている。

また、先ほど放課後子ども教室の話もあったが、放課後子ども教室が失敗とは言わないが、縦割り行政のいけないところで、いろんなところが乱立してしまっている。

どこがどう進めるのか、学童保育と放課後子ども教室はどうするのかという話があったり、実は、もっと協働してやらないといけないだろうと思っている。

議長がおっしゃったように、大学生とかも絶対必要と思うし、学童保育の方も人材不足と言われているので、教育を目指している大学生とかが実際にボランティアで学童保育とか放課後子ども教室に入ってくれるような、仕組みが作れたらいいなと思っている。

子どもの課題というところでは、放課後であるとか、子どもの居場所が課題になると思うし、キーワードになるのが学童保育や放課後子ども教室とかになると思う。

（議長）まず、コミュニティ・スクールでの地域と学校の連携については、実は、浅野先生に講師の依頼をしたときに学校教育に軸足を置いて話してほしいとお願いしたので学校教育の視点で話をしていただいた。

小中学校がベースであるのは承知のうえで、4市1町の県立学校の事例を全部出して話をしていただいた。おそらく、意図としては、高校をちゃんと視野に入れたいということだと思います。

市町村の仕事として県立学校の話は出来ないという部分がありますが、社会教育の場合は、関係なくグリーンハイツという団地に兵庫県立川西緑台高等学校があるだけの話だが、地域にとっては高等学校もちゃんと位置付けた形で地域の教育資源である。

高校側からすれば、生き残りを賭けて地域を支えていかないとという同じ課題を持てる共通のWinWinの関係なので、人材とか、教育資源、もしくは課題意識というのはターゲットにできる。

社会教育委員の会ですから、県立高校も本市の教育資源であるという位置づけで考えていけばと思う。

（委員）地域との関わりということで、私は今宝塚で保護司をしている。

特に問題のある中学生になれば、実際に犯罪に巻き込まれている。そういうところに保護司としてどう関わっていくかが課題になっている。

その取り組みとして、安全安心の地域づくりというような視点から学校へ情報提供していくことから始めないといけないのかなと、保護司の間で話し合っているところである。

社会教育とは違うが、現在の社会環境の中で、正しい情報もきちんと子どものときから知っていただく。また、子どもが来れば保護者の方も関心を向けてもらえるので、安心安全の社会づくりがコミュニティ・スクールの課題ではと思う。

（副議長）地域との関わりを作るということになると、学校から見た視点だけでは動かせない。やはり、地域がどんな地域かを知ることは、公民館が今社会教育の一つの場であるし、そういうところはむしろ入りやすいだろうと思う。

ただ、ゆくゆくは公民館だけでは具合が悪いかなと思う。限られた地域に1施設しかないので、小学校を中心にしたところが、子どもたちの住居にある部分なので活動もしやすい。そうなれば、地域も入っていいんだけど、地域でそういう場を作る必要があるのか。核としては、公民館でいいだろうが、地域と話をするときに、地域のリーダーはそういうときにお力添えをくれる人がいるのか。多分いるんです。いるんですが、私が住んでいるところでも全然見えてこない。

色々話をするが、福祉なのか何なのかわからなくて、どう繋がっているかという組織図が全然見えない。そこを解明して、ゆくゆくはそこと結びつくようになっていかないと、WinWinのような関係にはならないと感じる。

時間のある方は、かなり高齢な人ばかりで、提言書を作成する時には、その点も考慮して、こういう地域を目指してほしいということを示す必要があると思う。

（議長）本市という基礎自治体で考えれば、めざす川西像だが、部長、副部長がいらっしゃるので、本市の現状、公民館毎の地域課題について、情報提供いただければと思う。

（部長）各地区に公民館があって、それぞれ特色があるという状況である。

例えば、年齢構成も微妙に違ってくる。ニュータウン側は、高齢化率が高くなってきてという状態で、一方で若い人が入ってきている状況もある。今、入れ替わりが進みつつあるところで、過渡期になっているのかなというところである。

そこで公民館がどういう役割を果たしているのかというと、今川西市で公民館を活用されている方は、高齢層の方が活用されていて、一方で図書室があるので、そこには若いお母さんたちが子どもを連れて、使っていただいているという状況がある。

ただ、それぞれ別の動きをしていて、一緒に動いている形にはなっていない。

本来的には、公民館の仕掛けとしては、そういうところを繋げていくというところが必要だろうが、そういうところまで至っていない。一概に高齢化の進み具合と若い人が入ってくる状況が少し違うので、個々の公民館で全部違うので、一律にどうということは言えない。

そういう中で、各公民館と毎月、公民館長会議をさせていただき、情報交換をさせていただいているが、なかなか日常の館の運営とかの部分を中心になって、社会教育部門まで踏み込んで議論しているという状況にないというのが現状である。

私も毎月、その会議に入っているが、やはり日常の細々した打ち合わせであったり、協議とかに

忙殺されている感はあるなという印象である。

そのため、理想の社会教育施設としての公民館というものが、十分に活用されているかといえば、そこまでは至っていないというのが忸怩たるところである。

（議長）住民満足度という調査があり、私の大学は吹田にあるが、大阪の中ではトップらしい。本市はどんな感じなのか。もしくは、住民満足度を上げていくための課題は何か。

（部長）単純に住民満足度という形ではないが、いろんな調査の上で行っている。

顕著なのは、市の情報を市民の皆さんが入手できる場所にあるかということ言えば、高くない。市としては、何とか情報を伝えようとするが、その情報が伝わっていない。

例えば、色んな計画を作るときにパブリックコメントをさせていただくが、そのパブリックコメントを各公民館に用意して見ていただくようにしているが、それをご覧になれるかという、興味のある方は見るが、市政にそれほど興味がないという方はスルーされる状況にある。

そのようなことからすれば、なかなか市の情報が届いていないというのはあると思う。

（議長）ベッドタウンの特性というところもあるだろうが。

（副部長）私は、昨年川西公民館の館長も併任していたので、公民館の現状をお話させていただく。

川西公民館は行政センターの併設ではないが、9館中8館は行政センターも公民館も職員がやっている、そういった業務にも忙殺されている感じで、当然講座も企画しているが、踏み込んでいくことができていないところがある。

ただ、夏休みであるとか、春休み、冬休みなど長期休業中については、公民館の空いているところを学生達に開放していこうということで、自習室を設けている。

それで、公民館というところは、勉強もできる、図書室もあるので本もあるということで、一定成長してきたというところはある。

また、小中学校ではないが、兵庫県立川西北陵高等学校がある企業と提携して使わなくなった古着を集めて難民の子どもたちに届ける活動をされている。

そういったことを文化祭の頃にされるが、各公民館の方に川西北陵高校の生徒が持ち込んで回収もするし、ポスターを貼ったりもしている。

それで、公民館の方は、社会教育という立場で子どもたちにはちゃんとルールを守ろうということで、約束した日に取りに来ないこともあり、その時はしっかり叱る。

また、そのような活動の内容を地域の文化祭であるとか、そういった活動の場に行って、アピールしませんかということで、子どもたちをできるだけ地域の方に送り出すようなことを館長会では伝達している。

ほか、公民館のグループ活動があるが、高齢化が進んでいて、その活動もだんだん先行きが見えなくなってきているところがあり、できれば若い人を入れたいと思うが、活動されている時間帯が学校へ行っている時間になるので、なかなか接点がないため、今夏休みに親子教室、おじいちゃん、おばあちゃんと子ども教室と何でもいいので、大人と子どもみたいな教室を企画している。

抽選になるぐらいになっているが、公民館としてやれるのは、そのようなことかなと思っている。

(議 長)また、地域移行の話になるが、例えばまちづくり部や郷土芸能部とかを公民館が作って、それを中学校側にアピールするみたいなもので、学校の部活動を丸投げするのではなく、地域側でこんなクラブをするけれども、来てくれる中学生はいませんかみたいな展開もある。

本市の部活動の地域移行はどのような感じになっているのか。

(指導主事)地域移行は、やり出してから２年目になるが、神戸市が川西市のやり方を参考にされているというのがあり、割と公募で地域クラブを集めようとしている。

中学校の部活動って 90 部活あるが、7 割ぐらいいは受け皿が見つかったている。

時期尚早だとか、拙速だとか言われるが、結構進んでいる。

実際、活動を始めているところがたくさんある。移行しなくても必ず部活動の数は減らさないといけない。もし、受け皿が見つければ、地域移行した方が、子どもの活動は残ったことになる。本当に部員がいなくなっているところがたくさんあり、それを潰さないといけないことになるので、地域移行することで部活動が残る可能性はたくさんある。

運動部については、8 割ぐらいい見つかったている。文化部を含めると 7 割ぐらいいになるが、文化部の活動は公民館でお願いできる可能性もあるし、今まで中学校の部活動でなかったものをされている例があるので、もっと可能性は高まると思っている。

私たちが思っている以上に地域の方がたくさん手を挙げてくださっていて、小学校で教えておられる方や地域で経験のある方が立ち上げてくださることが多く、本当にありがたいと思っていて、これは川西市の売りであろうということを教育長にお話させていただいている。

(議 長)完全移行なのか。それとも土日だけか。

(指導主事)平日も含めて完全移行である。

(議 長)先生方の希望者はあるのか。

(指導主事)先生が立ち上げているクラブもあるが、数は少ない。

(議 長)今、話があったように、川西市はベースはある。熱心な方も地域人材もたくさんおられて、そこをコミュニティ・スクールをきっかけで整備できたところはある。

ベースはあって、大事なものはめざす地域像であったり、めざす子ども像であったり、めざす学校像で、そこを整理して腑に落ちる形でしておかないといけない。

やっている人でも思いが違ったりする。

冒頭、話をした社会教育という立ち位置でめざす子ども像であったり、めざす地域像というものを、まず固めて、地域住民として地域の子、学区の子をどうしたい、どうなってほしいというところの共通認識をして、それに向けて意図的に計画的にアプローチしていくか、どんな仕掛けがあるかというところに話を組み立てればいいと思う。

それでは、社会教育として、もしくは地域の側としてめざす子ども像、どんな子どもになってほしいかをフリーでお話いただければと思う。

(委員) 本校では、もちろんめざす子ども像というのがあるが、本当にわからない世の中に生きていかななくてはいけないから、非認知能力、社会常用的スキルを高めていくのがより豊かになるのかなという研究があり、それに乗っかかる形でスタートしている。

学校運営協議会も学校教育目標の承認というところもあるので、そこを地域の方にお話しして、そこで反対ってあるのかなと思ったりする。これが地域の方に考えてほしいと言ったときに、いやそれは学校が考えることやろとなるし、学校の方で考えたものを承認してもらおうというのがどうなのかなと思う。学校中心の地動説だと思ったりする。

しかし、いつも課題になっているのが、社会全体の働き方の部分で地域に出ても高齢者だけだったりとか、保護者世代が仕事をされているので、地域との関わりが薄くなって、あと 10 年、20 年すると地域が崩壊しているんじゃないかという話題になってくる。

社会教育のスタンスで部活動を今までとはまったく違う考え方をしないといけないと思っていて、部活動というよりは、たぶん生涯学習なんだと思う。

今の自治会の方がたちがコーラスをしていたり、麻雀をしていたり、どこかに写真を撮りに行ったりとか、そこに子どもたちやすべての世代の人が参加して取り組んでいけるような町にならないといけないと思っている。

子どもでも、小学校でも麻雀クラブに入ってもいいのと違うとか。

(議長) ダブルエントリーが増えていくだろう。

(指導主事) 各学校の学校運営協議会に参加させてもらっているが、どの学校園でもよく出る話は地域の方が高齢化していることが 1 点、もう一つは保護者の関心が下がっている。学校園に子どもを預けたら、預けっぱなしで PTA もなくなっていく中で、保護者が学校教育に協力するのが低くなっているとよく言われる。

学校運営協議会の場合、自治会やコミュニティの役員をされている方から自治会の加入率が下がっていることや行事をするにも担い手がないという話をよく聞く。

私も委員が言われたように、地域に子どもたちが出て行くことは、すごくやりたかったことの一つで、地域が活性化するんじゃないか、議長がおっしゃったように縦の関係を作れば、地域は活性化するだろうと思っていたので、中学校時に地域行事のお手伝いをした子は、大学生になっても担い手になってくれる可能性は高いし、大人になってからも担い手になってくれる可能性は高いので、中学校の時から経験が大人になっても地域行事の担い手になるのと違うかなと思っていた。

部活動に関しても、私も地域クラブをさせていただいているが、大学生になったら教えに来てよと言って、また来てもらおうと循環するのかなと思う。

私が、東谷中学校にいた時だが、例えば、子どもの主体性が乏しいのではとか、自己肯定感が低いと感じていたが、地域行事で地域の方と一緒に行って、褒めてもらうとかは明らかに自己肯定感が高まると思う。1 度地域行事に参加した子は、2 回 3 回と参加する子が多く、それはいい思いをしているからだと思うが、それがめざす子ども像に繋がるかはわからないが、地域の方も同じ価値観で動いてくれていた。

このようなことは異世代の方と話をすることで、コミュニケーション能力が向上するというプラスもある。

（議 長）社会教育の強みがそこである。

今の話は社会教育が学校教育をサポートする。そういった機会を多様に作ることが大事と言うことである。

また、親、保護者の関わり方で PTA も地域活動のエントランスで、イベントには参加するが役があるとしない。そういった保護者が増えて、体験格差が広がることが危惧されるので、社会教育がどれだけカバーできるか、これは学校教育の課題でもあるが、そこを学校 5 日制と同じで社会教育がカバーしないといけない。

（委 員）私も今評価しないというのが、いちばん大事にしている社会教育観で、社会教育では、あるべきこと、あるべき課題というものが大人から与えられずに、子どもたちが出来ても出来なくても、まずは受け入れて、どうありたいかを子ども自身が見つけて進んでいく、その子にとっての最善のものを共に作って、実現することをサポートしていくことを保障していったらいいと思うので、評価しないということに共鳴する。

（議 長）公的社会教育なので、公費を使った社会教育なので、やはり目指すものがあって、そこに公費をどう投下していくかを考えていくのが仕事なので、何でもかんでもやったらいいんだが、選択しないといけないことがある。

（委 員）間違っていないが、地域が潰れないように地域の活性化のために、担い手を作るとなったら、そこで体験して得るものは子どもの育ちに絶対マイナスではないと思うが、歯車や担い手のために子どもを使っているわけではないということを押さえておかないと間違っていくかなと思う。

（議 長）結果と手段の取り違いがないようにということである。

（委 員）自己肯定感ってよく言われるが、生きているってそこそこ楽しいよねとか、大人が楽しそうに生きているから大きくなってもきっといいことがあるよねと思えるように自分自身がそうありたいし、そういう社会にしたいと思っているところが自分自身の根底にある。

子どもの意見表明権とか、参加する権利とかが言われるが、子どもの声の方が小さいので、大人がそれをしっかり学んで、聞ける大人になりたいと思っている。

子どもの育ちを邪魔しない大人でありたいと思っていて、できるだけ子どもの持っている力をまわりの人との関わりの中から伸ばしていけるようすることが大事だろうと思っている。

（委 員）確かにめざす子ども像というのは、橋渡しが必要だと思う。

真実を見抜く力、自分で判断できるようにしないと今の社会は嘘やごまかし、詐欺なども横行しているので、それを見抜く、気づくようにしてあげる必要がある。

（副議長）川西市で 2 月から川西市介護予防・健康ポイント事業「笑顔ミライちょきん」という事業があり、早速やった。

昨日も出かけて 50 ポイントいただいた。ふと考えたことがあり、この事業を子どもたちにもな

ぜやらないのだろうと思った。

目的意識ができる。公民館やキセラ川西プラザの２階を見ると子どもたちが集まっている。申込制ではないので、そういうところに行けばポイントをあげるとか、もっとオープンにして実施できないものかと思ったところである。

（副部長）公民館でもやっているが、子どもたちが来て、ポイントがもらえるようなものがない。子どもを対象にしていない事業となっている。

（副議長）今は、福祉に軸足が向いているが、将来、こういうものを検討するときは、もっと効果的になるのではと思う。

（議長）そろそろ時間も押してきている。研修会の感想や担当としての思いのほか、本日の議論を踏まえて総括をお願いする。

（主査）今回、学校運営協議会への社会教育の関わり方ということで、色々お話を伺う中で、地域が良くなないと学校が良くなれないというのは、学校現場にいた私もなるほどと思うところである。

やはり、子どもたちは地域からというのがあるので、地域の色が変わると子どもも変わって、もちろん学校も変わるということで、天動説という話もあったが、地域が本当に大事なんだと、この立場になって学ばせていただいている。

私も各学校園の学校運営協議会を回らせていただいているが、今回のポイントにもなる北陵小学校で宿泊して防災活動をコミュニティがされていたり、けやき坂小学校では、今年度初めて地域のお祭りに子どもたちがティッシュ配りで参加したりしていて、ティッシュ配りのつもりがお店番もしたり、子どもたちがすごく充実したという話を聞いている。

このように、地域に子どもたちが出て行って、地域で子どもたちが色々な体験をして学んでいるところが社会教育なのかなというように捉ええると、地域の方が学校運営協議会で学校が地域に出ていくことを議題にされることが大きいので、どうやったら各学校運営協議会で学校が地域に出ていく話題が増えるかが社会教育としての学校運営協議会への関わり方なのかなというヒントをもらったと思っている。

今年度、お祭りなんかに行かせてもらって、店番とかだけでなく、運営する側になってそれを体験することで、ゆくゆくは地域の担い手になっていくといった、子どもたちのためでもあるし、地域のためにもなっているということを目の当たりにして、その種が将来の地域の担い手という花が咲いていくのかと思うと、学校運営協議会でいかに地域に出て行くかということを、皆さんと考えていければと思う。

（議長）業界的には、仕掛けを仕組みにと言う。仕掛けることをいかに仕組みにしていけるか。もしくは、仕組みを想定しながら仕掛けていくか。

それでは、熱心なご協議をいただき感謝する。

公的社会教育としては、いろんなアクションとか交流の場を作って、とりあえずやってみよう、そして多様な経験をしている子どもを作りたいというのが、皆さんの意見を聞いて感じたところで

ある。次の会議に続けて行ければと思う。

それでは、次第 4 のその他、社会教育関係団体に係る補助金関係について、事務局から説明をお願いする。

（事務局）社会教育法第 13 条におきまして、7 年度 of 社会教育関係団体に対する補助金について、社会教育委員の皆様のご意見を聞いて補助金を交付しなければならいとなっている。

それに基づきまして、7 年度の補助金がどのような形になっているかご説明させていただくが、まず前段階としまして、本市の補助金の制度のあり方だが、令和 5 年度から補助金の仕組みというものが変わった。

4 年度までは団体等の維持や存続のための団体運営補助金として定額の金額を差し上げてきましたが、令和 5 年度から段階的に各団体が行う具体的な取り組みに対する事業活動奨励補助へ移行しているところである。

公益性のある事業で事業の成果が広く市民に波及する。そして市の施策に合致した効果が見込まれる事業に対する活動奨励補助という形になっており、補助率は原則として補助対象経費の 2 分の 1 になっている。

最終的には、令和 8 年度から事業奨励補助という形になり公募型の補助金になる。

令和 8 年度から公募型の補助金になれば、今後は補助金の効果を把握するために、成果の指標とか数値目標を設定して毎年度、市民に公表するような形になる。

それで、今回、令和 7 年度は令和 8 年度に公募型になる前段階の最後の年度になるが、その内容について説明する。

予算を計上している団体は 3 団体である。

川西市 PTA 連合会が 283,000 円、川西ユネスコ協会が 90,000 円、川西市婦人会が 90,000 円で、これは現在開会中の市議会において予算審議をいただいているところである。

最終的には、7 年度ではこの補助金額をマックスで計上しているところである。

川西ユネスコ協会と川西市婦人会については、生涯学習課が所管しており、川西市 PTA 連合会については、教育保育課が所管している。

この団体についても、8 年度から公募型で 7 年度の 4 月以降に手挙げ、公募が始まる。

公募については、補助金の見直しを進めた企画政策課において、広く市民に周知するよう事務を進めていると聞いている。

7 年度は社会教育団体としましては、3 団体が交付を受ける団体になると思うが、8 年度については、来年度公募で応募される団体があることも想定されるので、交付団体数が増えてくる可能性がある。以上、報告する。

（議長）ありがとうございました。本市の場合は、運営費補助ではなく、事業費補助となっており、2 分の 1 の補助になる。

（委員）令和 7 年度の予算について報告いただいているが、具体的にどういう事業で申請が出ているのか。

（事務局）7 年度については、現行の補助金制度と同じなので、例えばユネスコ協会はユネスコ憲

章に基づいて、世界の平和と人類の福祉に寄与することを目的とするユネスコ事業に対する補助金になっている。

（委員）具体的にどんなことをされているのか。

（事務局）ユネスコ協会では、例えば、平和学習を目的とした事業、地域の文化財や身近な自然環境のすばらしさを見つめ直して、それを未来に引き継いでいく心を育む事業などをされている。

（委員）夏休みに講座を募集して、子どもたちが学び合い、体験する場を作るというようなことか。

（事務局）例えば、ユネスコ協会では、「わたしの町のたからもの」として、夏休みの宿題で街の中で、これは宝物だなという風景を描いていただき応募される。それを審査するといったことをしている。

（議長）ユネスコ協会が実施する地域学習の授業を束ねて、一括申請して2分の1補助という形なのか。個々の事業ではないということか。

（部長）ただ、複雑なところもあり、ユネスコ協会自体はユネスコ法に基づく活動をされるということになるが、市にユネスコ活動をしなければならないというのが、法で定められている。

市が特段、ユネスコ活動をしていないこともあって、ユネスコ協会にお願いしているところもあるのかなということで、ユネスコ協会がされる事業については、市が共催をするというやり方をさせていただいている。共催をするとみづなかホールでコンサートをされたりすると、補助金を充てるよりも共催することで使用料免除ができるので、そのような対応をしたりしている。

その辺は、選択いただいているところである。

（委員）川西市婦人会はどのようなことをされているのか。

（事務局）川西市婦人会は、婦人の地位向上や心豊かな地域社会の発展に寄与することを目的に、地域の清掃活動などのボランティアであったり、健康体操など、体力の増進に寄与する活動を広く市民の皆さんを募ってやっておられる。

（委員）90,000円というのは、清掃道具代とか、会場の費用か。

（事務局）マックスが90,000円なので、必ず90,000円を使い切らないといけないこともないので、経費の半額を補助するという形である。

（委員）運営費ではなく事業費ということなので、この90,000円、あるいは283,000円が何に対して使われた、使われる予定かを確認しないと良いも悪いも何も言えない。

(部 長)先ほども申し上げたように、大きいもので言えば、施設使用料とかになる。

ただ、これまでなら、例えば会議をするときでも何かはされていたが、事業ではないので、そこは自費で賄ってくださいみたいな性質に変わった。

あくまでも、多くの人に参加いただけるような事業に対して補助を出すということになる。

(委 員) PTA はどんな内容か。

(課 長)保護者向けの活動ということで、研修会とかだが具体的には年に 1 回川西市と猪名川町で合同の高校の進路説明会にそれぞれの高校に来ていただき、どんな学校かを紹介してもらうときの費用や、保護者向けの講演会を主催して講師料に充てたりしていただいている。

(委 員)よくわかった。

(議 長)それでは、社会教育関係団体に係る補助金関係については以上とする。

その他、事務局から連絡事項等はあるか。

(事務局)次回以降の会議日程ですが、年度が変わって 7 年度になるが、教育長から 5 月か 6 月頃に一度学校運営協議会を社会教育委員の皆様に視察していただければという意向があるので、日程調整をさせていただければと思っている。

また、事務局から連絡を差し上げるので、よろしくお願いします。

(議 長)それでは、第 3 回川西市社会教育委員の会を閉会する。